
習作短編集

ネイム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

習作短編集

【著者名】

ネイム

【ノード】

N5300BA

【作者名】

【あらすじ】

題名の通り、書きたいと思ったから書いてみただけの短編集に御座います。お楽しみ頂ければ幸いです。

十オフエンス

「好きだ」

肯定、断定、決定。

好き、といふ意思がするつと口から零れ出た。

見れば相対している彼女が驚いている、小さく口を開き、瞼がいつもよりも上がっていた。

常の楽しげな笑顔が、柔らかな仕草が嘘のよつに固まっている。

網膜に映る彼女が一人、俺の視界を占有している。

あア、己の言の葉で心揺らしてくれるのか。

頬が緩む、阿呆である。

己の心の内を彼女に表した、しかしそれだけである。

思っていたことをそのまま表にしただけである。

望みも、頼みも、願いも、乞いも、ない。

深い理由も高尚な想いも敬虔な願いもない。

それはとても、とても独善的な意思。

総ては欲望に則つて為されるもの。

其れだけ、其れだけであるがしかし、彼女は間違いなく心を揺らしている。

当然だ、知識を持ち察しも良い女子であれば今の状況が如何様なものか理解出来るだらう。

所謂、愛の告白。

此処にいる「」が、眼の前に立つ彼女に対して。

其れを抱き、明確に自覚したのは何時だつたか。

恐らくは取るに足らぬ、余人にとつては酷く詰まらないことであつたことだらうとは思う。

其処彼処に転がる普遍的な、日常に溶け込む何かだった。

だが、其の何かが俺の琴線に触れて。

近くに好ましいことがあるのならば、自然と眼がいき。

新たな発見を経て、自身の樂を感じ。

交流を繰り返して、育まれる心が膨張し。

己の想いが先行し、夢の中までも共にして。

彼女を奪おうと、独占してしまおうと。

抑制が、我慢が効かなくなつたのだ。

否、本来我慢するものではないな。

嗜好を持つ、其のこと 자체を否定は出来ない。

心の在り様を縛り否定を繰り返しても、執着は消え去らない。

意識する度に深く深く根差してしまい、気付けば基準にまで影響する。

まあ、否定せざとも心を占有していくが。

己は、そんな誰もが歩む道程の末に、遂に己を縛る存在だけを視界に収めた。

心は告げた、さらさら告げるとすれば一つ。

欲しいといつ、己の欲望だけ。

言つてしまえ。

躊躇つ必要が何処にある？

分岐路は疾うに越え、後は頂の景色^{コタエ}を受け入れるだけだ。

さア、言え！

「付き合つて欲しい」

＋ディフェンス

「好きだ」

心臓の跳ねる音が聞こえる。

錯覚じゃない、とは思つ、正確な判断がつかないけれど。

私の眼に映るのは、優しい微笑みを浮かべる彼ではない。

いつもの淡々とした調子が鳴りを潜め、緊張が微かに伝わってくる。

口の中が急速に乾いていく、視界が狭くなつて彼をより強く見てしまつ。

私を見て、緊張してくれるの？

甘美な痺れがじんわりと総身を伝つていく。

だつて、当たり前でしょ？

校舎裏に呼び出されて、何か話があるのか判らず来て見れば、仲が良い男の子からの告白だもの。

……想像出来なかつたのは嘘、滅茶苦茶想像してた。

いえ、自分に都合の良い想像だから妄想ね。

由慢じやないけど私は過去に一回由由られた経験があるし、鈍感じやないと自負もしている。

それに校舎裏なんて、漫画や小説ならば学生の告白の場所として王道。

だから、彼からのメールを見て睡を飲んだ、理由は紛れも無く期待だつた。

もしかして、と思つたのだ。

夢を、見ていたかつたのだ。

安易なハッピーハンドを描いてみたかつたんだ。

いつからだらう、彼を見ることが多くなつたのは。

別に運命的でも面白可笑しい出会いでもない、クラスで席が近いだけの初対面。

班行動や連絡伝達での会話から世間話に発展して。

馬が合つたのか話も弾んで、連絡先を交換して。

気付けば学校外で会うことが多くなつて、共有する思い出が増えていく。

もうその頃には彼を視界に収める日々だつた。

彼が自分以外の女の子と接する度、見つともなく嫉妬する毎日。

ベッドの中で彼を相手に、小説のような甘い恋模様を想像していた。

時にはそれこそ、一人でシーツの中にいる姿も。

ああ、思い出すだけで顔が火照る。

我慢なんて出来ない、出来る理由が無い。

そもそもする必要なんて無い、私は私を縛り切れない。

全ては手遅れ、私が彼に囚われたときから釈迦でも草津の湯でも治せるものか。

知らぬ間に出来た心を殺さず、今の今まで育んできたんだ。

一緒にいるときを、大事に大事に過ごしてきたんだ。

だから怖がるな、そして決定的瞬間を見逃すな。

好きって言つた、なら続く言葉があるはずだ。

想いの言葉に続く、私へと繋ぐ言葉があるのが鉄則でしょう。

だから言つて、その続きを。

もう一つとは、次にやることは一つだけ。

来て、早く来てよ、迷わないでよ。

私に、もう一歩踏み込んでおこよー。

「付き合つて欲しい」

「好きだ、付き合って欲しい」という一言の間の心情描写を入れてみました。

一応、彼、彼女、私、俺等の代名詞を弄れば男女逆転は勿論、薔薇や百合にも対応しておられます。

痒いところに手が届く安心設計です。

え？要らない？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5300ba/>

習作短編集

2012年1月14日18時48分発行